

## 第12回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年7月28日（金） 14：00 - 16：00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、薬師寺座長代理、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員、山崎委員

(2) 政府側（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、行松参事官、山口参事官

(3) 説明者

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 谷課長

宇宙開発利用課宇宙利用推進室 庄崎室長

4. 議事要旨

(1) 我が国の宇宙科学・探査の在り方について

資料1、2に基づき、文部科学省から、文部科学省で行われている議論の中間取りまとめについて説明を行った。説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、質問・意見等、：回答）

国際宇宙探査については、「有人・無人」という整理、「学術研究としての探査・国家プロジェクトとしての探査」という整理があり、組み合わせると4種類ある。報告書ではこれら全てを含んでいるのか。

有人宇宙探査とその準備のための無人探査も含めた、国家プロジェクトとしての国際宇宙探査を対象として議論をしている。

現在の内容では、学術研究としての宇宙科学探査も対象にしているという誤解を招く可能性があるので、これを対象にしてないことを明確に示すなど整理をしていただきたい。例えば、宇宙科学探査との関係性を明確にするため、冒頭に、宇宙科学探査は工程表にしたがって進めるという記載をしてはどうか。

我が国これまでの実績や現状を分析した上で、基本的な考え方を示し、具体的な取組を示すなど、階層構造で整理をしていただきたい。

具体的な資金や目標の在り方も検討していただきたい。複数のシナリオやそれに必要となる予算規模も含めて検討すべき。

国際協調の有無にかかわらず、日本が何をしたいのかがまず重要である。日本としての主体的な考え方を議論すべきではないか。

I S E F 2 では前回と比べ参加国が増加するなど、新たな国際協力体制づくりが重要となるので、関係省庁と連携してその在り方を議論していただきたい。また、民間・非宇宙の取り込みが課題となるので、サイドイベントの活用なども検討していただきたい。

宇宙資源探査を各国が進める中で、日本がどのようにこれを位置付けるのかについても議論の必要がある。

I S S プラットフォームの一部について民間事業者等を主体とした自立化を図る、と記載されているが、このための具体的な取組も検討いただきたい。

以 上